

平成30年度学校関係者評価委員会 議事録

【日 時】平成30年12月14日（金）10時50分～11時30分

【場 所】こころ医療福祉専門学校壱岐校

【委 員】品川 洋毅，木屋村 新悟

【事務局】中野 勝，田島 百合子，川口 進一朗，開 由香，藤 玲子

【総 評】大きな問題なし。現状に満足することなく、更なる改善に努める。

1 学校自己評価の説明（校長 中野 勝）

学校自己評価報告書，学校自己評価に係る評価書の説明を行う。

2 平成29年度学校自己評価結果に係る委員の評価書

特に問題なし・・・○

附帯意見あり・・・△

	点検項目	学校関係者評価
1	学校の目標・計画	○
2	教育理念・目標	○
3	学校運営	○
4	教育活動	○
5	学修成果	○
6	学生支援	○
7	教育環境	○
8	学生の受入れ募集	○
9	財務	○
10	法令等の遵守	○
11	社会貢献	○
12	国際交流	○
13	学校評価の総合的結果	○

3 委員意見

- (1) 退学者が出ていないとのこと、朗報である。介護の楽しさを実感できるような指導を願う。
- (2) 島内高等学校の卒業生で、壱岐に残りたいと希望する生徒が増加していると聞き及んでいる。両校への働きかけをさらに行ってほしい。
- (3) 点検項目すべてにおいて良好な運営がなされているように思われる。ただ、学修成果や地域の福祉施設への介護福祉士輩出等、検証に少し時間を要する項目もあるが、良い結果につながることを期待している。

4 その他の意見

(1) 品川委員

留学生が島に溶け込めるよう、様々な行事に積極的に参加し、地域住民との交流を行っ

ているのは大変良い取り組みである。

しかし、現状では留学生が本校に在籍していることを知らない方も多い。周囲からの偏見はないか？

→湯の浦公民館で異文化理解の講演会を行い、インド人・ネパール人の代表者が母国について紹介した。多数の方にご参加いただき、食文化、風土などについて質疑応答を交えながらお伝えすることができた。

地域の方々が彼らを理解し、受け入れようとしてくださっていることを知り、発表をした留学生自身もコミュニティの一員であることを実感できた様子だった。

開校前一番心配していたのは地域の方がどんな留学生が来るか心配されるのではないかということ。しかしおかげさまで温かい目で見守り、様々な形で応援していただいている。

(2) 木屋村委員

地域の方とコミュニケーションがとれるよう様々な行事に参加しているのはとてもいいこと。地域にあったコミュニケーションは非常に大切だと考えている。

実習中、どの学生も大変態度が良く、挨拶もきちんとできていて、教育が徹底されていると感じた。

→どの実習施設でも大変熱心にご指導をいただき感謝している。学生たちが卒業後のキャリアイメージを構築する上でも実習は大変貴重な学びの場である。学校だけでは即戦力となる介護福祉士の養成はできない。今後とも学生たちを自分の子だと思ってかわいがっていただき、悪いところがあればその場で指導していただきたい。

5 今後の取り組み (校長 中野 勝)

(1) 即戦力となる人材を一人でも多く老岐市に輩出する。

(2) 島内各施設に在職し、国家試験受験を予定している職員を対象に国家試験模擬試験・解説を実施した。新しい試みだったが多数の参加があり、ニーズが高いと実感した。来年度以降も実施していきたい。

(3) 本会で提言・提案されたことについては、本校で具体化を図り、結果・成果等を次回の委員会で報告を行う。

6 まとめ (校長 中野 勝)

開校から約2年が経過し、3月には本校初の卒業生が社会に飛び立つ。

この2年間は地域の皆様には本校の理念を御理解いただき、多大な御支援を賜っていることに感謝するばかりだった。

卒業生のうち7名は壱岐島内での就職が内定しており、今後は島内施設との連携・協力関係が更に強固なものとなっていくよう邁進する所存である。

また、島内施設職員向けの国家試験模擬試験・解説等、学生以外にも学びの場を提供することで島内全体の介護事業にとってなくてはならない存在となれるよう、努力を続けていきたい。

本校職員・学生からの意見だけでは、介護現場の実際のニーズ、現状を完全に把握することは難しい。今後とも様々な視点からのご意見をいただき、教育活動の更なる充実に繋げていきたい。